

## 田中 優 理事長

Tanaka Yū

### フェイクばかりの現状

福島第一原発事故の原因は、  
地震と設計ミスのせいだった



福島第一原発事故の原因と対策を知るために、さまざまな事故調査委員会が設立されて事故報告書が出された。が、どれもすべて「津波が来て緊急用電源が失われたために炉心を冷却できなくなったためにメルトダウンした」ことを原因としている。従って、津波が届いていなければ緊急用電源は健全に機能してメルトダウンしなかったことになっている。

このシナリオ自体が間違っている。従って、次の事故が同じ経過で進んだとするなら事故を全く防げない。私はそう判断せざるを得ない。事故は津波が届く前に進行しており、原発の設計そのもの間違っていたと思うからだ。

2019年9月の「文藝春秋」に掲載された元東電社員の木村俊雄さんの記事に書かれている通り、東電は飛行機のフライトレコーダーに値する「過渡現象記録装置」に残された「炉心流量遷移」を公表せず、その公表を求めない調査委員会には、まともな判断ができるはずがないと思う。元東電社員だった木村さんは、2000

年に退職するまでずっと原子炉の流量を見ながら運転状態を判断する「炉心屋」をしていた。いわばこの計測データは彼にとってのスピードメーターだった。その流量を公表させ、彼自身が解析したところ、炉心は地震の直後に大きく変化し、一瞬反転して逆流した後、設計通りなら10%は循環して流れるべきところを全くゼロになってしまった。わずか10%だが、それが循環していれば核燃料の50%の熱量を下げることができることになっていた。ところがそれが全く停止してしまい、原子炉内は冷却できない状態になっていたのだ。

冷却できないと核燃料は温度が上がり続けてメルトダウンしてしまう。しかし実際には核燃料全体がメルトダウンする前に、部分的に溶け落ちていた。これは燃料集合体の表面の冷却水が沸騰して、発生した泡に覆われて燃料棒を冷やせなくなったためだ。この現象を「ドライアウト」といい、原子炉を運転するものにとって怖い現象として最も恐れられていた事態だっ

た。冷却水が沸騰して泡立ってしまい、水に触れていない燃料が冷やされることもなく溶け出し、制御不能に陥る。もともと福島第一原発のような「沸騰水型原発」の場合、炉の上部では沸騰するのだが、それを70気圧という強い圧力を加えて270℃まで沸騰しないようにコントロールしている。

さらに部分的に泡ができないように二基の巨大な再循環ポンプで18000トンの冷却水を循環させ、20基のジェットポンプで流れをコントロールしている。その流れが異常になり、ついには流れがなくなってしまうところまで行ったのだ。流れがなくなれば泡を消すこともできずに、「ドライアウト」現象が起こってしまう。ジェットポンプそのものは動力を使わずに熱による流れの圧力により循環するものであるが、流量が止まってしまったことから考えて冷却水が失われたが、それほど急激にはではない。

従って、大口径の送水管の破断（これを「ギロチン破断」という）ではないと思われる。破断して冷却水の流れの圧力を失わせたのは、おそらく炉心から原子炉建屋に伸びている測定用配管ではないかと思われる。特に20基のジェットポンプにそれぞれついている測定用配管ではないだろうか。それは危険性から考えて重要度の低い配管として、低い強度で設計されている。現に当日は動いていなかった福島第一原発四号炉でも、同じ地震で測定機用配管が破断している。

**破断**するとそこからは70気圧、270℃になった冷却水が噴出する。原子炉建屋のような普通の一気圧の環境に吹き出せば、水にすらならない蒸気として噴出するだろう。普段の冷却水ならさほど放射能で汚染されてはいない。しかし原発の作業員は17時19分、すでに普段は汚染されていない原子炉建屋にさえ入ることができなかった。その時点は核燃料が破壊されると予想されていた22時20分よりずっと早い。津波で非常用電源が失われたことを想定した時間よりも、5時間も早いのだ。

津波が届いたのは地震の41分後だが、実際に流量がゼロになったのは地震のわずか1分半後だった。炉心内の流れはわずかな漏れによって

妨げられ、炉心内が泡立って空焚きになっていったのだ。だから予想よりもずっと早く原子炉建屋内が放射能汚染され、作業員も入ることができなかったのだろうと思われる。

ところが専門家たちを集めた四つの「調査委員会」はすべて、「津波のせいで事故になった」と判断した。だから津波が来ても守られるように、防潮堤をかさ上げすることで対策としたのだ。しかし実際の事故は、設計の誤りが原因だ。防潮堤を高くしてもドライアウトは防げない。

こんな見当違いの対策を施しただけで、次々と止まっていた原発は再稼働を始めてしまった。「地震と設計ミスが原因」なのに、「津波に対策する」という愚かしい対策をして大丈夫になったと勘違いしているのが今の時点だ。残念ながら世界の大地震の2割はこの日本で起こっている。そして100～200年に一度の「海溝型地震」の「南海トラフ地震」は、秒読み段階にある。1000年に一回の頻度の「活断層地震」を起こす活断層は全国に2000以上あり、特に福井県と琵琶湖周辺に多い。まさに再稼働させた四国・九州の原発と福井の原発群のあたりだ。

2019年9月19日、福島第一原発事故を起こし、業務上過失致死傷の罪で強制的に起訴された東京電力の旧経営陣3人の裁判で、東京地裁は3人に対して無罪を言い渡した。つまり事故は予見できない不可抗力の事故とされたわけだ。それもまた「津波が原因」とされ、津波が起こることへの予見性が問われたのだ。フェイクばかりだ。事故の原因もフェイクなら、その予見性もフェイクだ。しかも被害者をこれだけ出しても罪に問われない。

もうそろそろ真実に目覚めて良い頃だ。本当は何が起きたのか。何が本当の対策になるのか。知ろうとしなければ、これからもいいように騙される。

# 井上 あいみ

Inoue Aimi

## その後のつながり

「森を守って健康長持ち」を家づくりのコンセプトに掲げ、国産材と自然素材で家を建てる「天然住宅」が発足して11年が経ちました。これまでお引き渡しをした建物は130棟以上（世帯数で数えるとさらにたくさん！）。人の暮らしや人生に密に関わる仕事だからこそ、年月を重ねてきた重みをしみじみと感じています。

天然住宅には今も、モデルハウスがありません。その代わりとなるのが、建主さまの家で開かせていただくお住まい見学会です。実際に建てた方の暮らしを見ることができ、住み心地などリアルな声を聞くことができます。しかも新築だけでなく、「築8年目の見学会」といった具合に、少しずつ年季の入った家もご紹介できるようになりました。自然素材住宅の経年変化を気にされる方が多い中、その変化を確認できるお住まい見学会は参加者からも人気です。

見学会を開かせていただくお客さまには、お引き渡し後も定期的にお会いできますが、そうではない方もいらっしゃいます。

すっかりご無沙汰になっている方とも改めて関係を築いていきたい。その第一歩として企画したのが建主さま向けの親睦会です。（ちょうどこの原稿を書いている翌々日が親睦会当日です！どきどき…）

建主さま全員に案内状をお送りしたところ、予想以上にたくさんの方から参加表明をいただきました。残念ながら参加が叶わない方からも、「こんなイベントを待っていた」「ぜひ、またやってほしい」と好意的な意見をたくさんいただきました。

建主さまの反応を受け、「私たちが求められていることは何だろう」と考えました。

もちろん、「安心して暮らせる家を建てる」ことが一番だと思いますが、建てたら終わりではなく、「その後の関わり」にも期待を持っていただいているように思います。特色のある家づくりだからこそ、同じ家を建てた者同士でつながりたいという思いもあるのかもしれませんが。

今回開催する親睦会が、建主さま同士をつなぎ、近い将来、ひとつのコミュニティのようなものに育っていく、そのきっかけ（土台）になったらいいなと思っています。

話を天然住宅から新生未来バンクの話に移したいと思います。未来バンクのニュースレターでは、「融資先紹介」を掲載していきます。これは、組合員の皆さんに、自分のお金がどのようなところに使われ、役立っているか、もっと知っていただきたいと思ったからです。

組合員の皆さんに聞いてみたいことがあります。新生未来バンクに期待することは何でしょうか？大切なお金を活動に活かしてほしいと、出資という形で託された、そこにこめた思いは何でしょうか。

ただお金を出すだけでなく、そこに、もっと実感が伴うような体験があったらいいなと思っています。融資先紹介は、その第一歩になると思いますし、今後、組合員の皆さんや融資先の人たちが集い、交流できるような場づくりもしていけたらと思っています。そう、天然住宅にとっての親睦会のような場ですね。ぜひ皆さんの意見を聞かせていただけたら嬉しいです。

# 佐藤 隆哉

Sato Takaya

## 未来バンクのありたい姿とは

2019年2月から本格操業を開始した新生未来バンク。ホームページをリニューアルしたりと、新たな一歩を着実に歩んでまいりました。世代交代ということで少し若いメンバーが加わったのですが、新たな組織の始まりは、ドキドキワクワク希望と共に、メンバー間の意思疎通はうまくいくか不安も…。皆さんも一度は同じような経験をしたことがあるのではないのでしょうか。

そこで今回は、未来バンクで実施した「システムコーチング」を紹介したいと思います。

「システムコーチング」とは、組織の関係性にアプローチし、ひとりひとりの関係性を豊かにするというものです。成功するチームを作り上げる一番の要因は「心理的安全性」であり、心理的安全性が不足していると、

- ・無知／無能だと思われる不安
- ・邪魔をしていると思われる不安
- ・ネガティブだと思われる不安

があり、自己呈示行動や自己印象操作などの、自己保身活動が中心になる組織になってしまいます。

わかります。これは、職場、学校、家庭など、どこにでもあることです。これらを解決するために、メンバーの意見に耳を傾ける場を設け、それぞれの想いを共有しながら、小さな声や言語化できない思い、感情といった深い意識状態も大切にすることが大事なのです。これらのコーチングを通して、本当のことが共有される場、感情や思いを共有できる関係性が構築しやすくなります。



(コーチングの様子です)

前置きが長くなりましたね。さてさて、世代交代

をして20代から60代の幅広いメンバーになった未来バンクが、システムコーチングを受けた様子、変化をお伝えします。

### 1. 未来バンクのありたい姿を共有

「こんな未来バンクになりたい」というテーマで絵を描き説明するというワークをしました。絵が上手な人、苦手で見せるのをためらう人、独創的なデザインの人と様々でしたが、じっくりしっかり想いに耳を傾けると、二つの共通した想いが浮かび上がってきたのです。

ひとつめは、良い循環の中心として、また一部として、大きなつながりを創造し続けていく姿。環状矢印や円、アメーバで表現されていました。NPOバンクなので、おカネを通して実現していくという基本方針は変わりませんが、自然、暮らしや人間関係、仕事など様々な側面でNPOバンクとのつながりを実感してもらえるように、もっと未来バンクを知ってもらおう活動が必要です。

ふたつめは、進取の気性に富んだ団体であり続ける姿。これは日本で初めて設立されたNPOバンクである未来バンクのまさにDNAです。従来の習わしや常識にとらわれることなく、積極的に新しい物事に取り組んでいこうという気質で、具体的な解決手段を示し、実行する団体であることです。

### 2. 若手中心のユースチームが発足

ありたい姿を実現させるため、中心的に活動計画を策定し実行していく若手チームが生まれました。若いメンバーが経験を積み、成長する機会を増やすことが狙いです。私もチームのメンバーですが、まだまだ実務経験がなく不安な部分もあります。けど設立時からのレジェンド?!メンバーも当初は同じで、試行錯誤を繰り返してきました。新しい考えと経験が作用しあい、相乗効果を生んでいく自律的組織が構築できると期待しています。

「システムコーチング」を通して、ひとりひとりの想いを共有でき、メンバー間の距離が縮まった実感があります。関係性をより豊かにしていくための一歩を踏み出した未来バンクを、今後もぜひ楽しみにしていただきたいと思います。

# ホームページをリニューアルしました

この度、未来バンクのホームページを新たにリニューアルしました。NPOバンクの説明から、未来バンクの歩み、融資先紹介やイベントの告知など、皆さまに未来バンクをより身近に感じていただけるよう、これから情報発信していきます！

 <https://mirai-bank.org/>



ホーム HOME 未来バンクとは ABOUT 出資・応援する INVESTMENT 融資を受ける LOAN 参加する JOIN お問い合わせ CONTACT



## 未来バンク

すべての人がお金に意志をもたせ、  
環境・福祉・地域市民のためになる活動にお金をまわす。

すべての人が自ら住みよい未来のつくり手となる社会を目指して。

### 未来バンクとは

未来バンクとは、市民が組合員となって出資していただいた資金を、環境・市民事業・福祉の目的に関して、市民やNPO団体・法人が起こす社会的有用性の高い事業や取り組みに対し「融資」という方法で支援することを目的に設立された、市民による市民のための非営利バンクです。

### 未来バンクとつながるには



融資を受ける



出資・応援する



参加する

## 総会開催のご案内 (組合員の皆さまへ)

- ・ 日時：2019年9月28日（土）午後2時～午後5時
- ・ 会場：〒112-8555 東京都文京区春日1-16-21  
文京区シビックセンター  
4階区民会議室B
- ・ 交通機関  
東京メトロ後樂園駅・丸ノ内線（4a・5番出口）  
南北線（5番出口）徒歩1分  
都営地下鉄春日駅三田線・大江戸線  
（文京シビックセンター連絡口）徒歩1分  
JR総武線水道橋駅（東口）徒歩9分

### <議題一覧>

- ・ 議案第一号  
2018年度事業報告・2018年度決算報告の承認
- ・ 議案第二号  
2019年度事業計画の承認
- ・ 議案第三号  
音信不通による組合員の脱退
- ・ 議案第四号  
定款の変更
- ・ 議案第五号／第六号  
役員の選出／理事長および業務執行理事の選出

# 融資先紹介

未来バンクはこれまで延べ400件以上の団体・個人に融資をしてきました。本号から、毎回、融資先紹介を掲載していきます。

## 特定非営利活動法人 多摩川センター



多摩川センターは、多摩川及びその流域において、次世代の命の継承の根源をなす健全な水環境と河川の保全・回復に資するため、自然環境、歴史・文化に関する調査研究、情報の受発信及び志を同じくする人たち、河川管理やまちづくりに係る市民と国、自治体、企業、学識経験者等の交流と連携の促進などの事業を、総合的な観点から推進し、河川と水環境を中心に、節度と良識ある社会形成に寄与することを目的として活動しています。

- ▷ 融資内容：多摩川中流域河川情報発信業務、他に対するつなぎ融資
- ▷ 融資日：2018年8月、2019年3月
- ▷ 融資額：計650万円（完済）
- ▷ HP：<http://www.tamagawa-c.jp/>
- ▷ Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）



### 未来バンクとは

市民が組合員となって出資していただいた資金を、環境・市民事業・福祉の目的に關して、市民やNPO団体・法人が起こす社会的有用性の高い事業や取り組みに対し「融資」という方法で支援することを目的に設立された、市民による市民のための非営利バンクです。出資者のみなさまの夢のこもったお金を通じて、想いと人をつなぎ、住みよい未来を育てていきます。

#### 融資実績

融資累計件数：426件 融資累計額：約13億7千万円（2019年8月時点）

融資の申し込みをご検討の方は、ウェブサイト内の「融資を受ける」をご覧ください。お問い合わせをお待ちしています。

<https://mirai-bank.org/loan/>



未来バンクの趣旨にご賛同いただける方は、出資をご検討ください。詳細はウェブサイト内の「出資・応援する」をご覧ください。

<https://mirai-bank.org/investment/>



### 編集後記

ニュースレター前号でやりたい事として掲げた「融資先紹介」の掲載を始めることができました。皆さんいかがでしたか？出資金が、融資先や社会に対し、どう役立ち、活かされているのか、少しはイメージして頂けたのなら嬉しいです。ホームページもご覧くださいね。（佐藤）

未来バンクニュースレター 第2号  
発行・編集：未来バンク事務局  
発行日：2019年9月

 未来バンク  
MIRAI BANK

連絡先：〒132-0033  
東京都江戸川区東小松川3-35-13-204  
市民共同事務所「市民ファーム」内  
TEL/ FAX：03-3654-9188  
HP：<https://mirai-bank.org/>  
MAIL：[info@mirai-bank.org](mailto:info@mirai-bank.org)